

# 建通新聞

令和5年12月1日（金曜日）

足立議員

強靱化  
継続

## 「強い覚悟示された」 補正予算最終討論で評価

11月29日に開かれた国会の参院本会議で2023年度補正予算案について、各党による最終討論が行われた。与党からは自民党と公明党を代表して足立敏之議員が登壇し写真。「国土強靱（きょうじん）化の取り組みを継続していく強い覚悟が示されている」と評価するとともに、「インフラ



の再生なくして日本の再生なし。公共投資拡大を含めた補正予算の確保がわが国経済の再生のため

不可欠」と強調した。

足立議員は、補正予算に賛成の立場から意見を表明。「デフレとコロナ禍で体力が落ちた日本経済がデフレから完全に脱却するためには、十分な財政規模を確保しなければならぬ」「エネルギー価格の高止まりが続く中、需要を支えることのためならば、消費は物価

高に負け、再びデフレに戻ることになりかねない」「国内経済が前向きな好循環を生むために思い切った経済対策が必要だ」とした。

その上で、防災・減災、国土強靱化の取り組みに触れ、「全国の首長から事前防災対策としての効果が顕著だという声が聞かれる。今回の補正予算は、資材価格の高騰や賃上げの実現を十分配慮した上で思い切った公共事業予算を確保しており、評価されるべき」と述べた。